

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮原中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。ICT機器やプロジェクターを有効に活用したことで、生徒が視覚的に物事を捉えることができ、基礎的・基本的事項の定着につなげることができた。次年度への課題として、教科ごとにICT機器の使用頻度や状況が異なるので、より効果的なICT機器の使い方を考えていき、互いに学び合う場の充実を図っていく。
思考・判断・表現	全体的には、思考・判断・表現力の定着を図ることができた。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の自力、協働に重点を置き、考えを深めたり、自分の意見を伝え合う活動を積極的に取り入れることができた。次年度も、タブレットの効果的な使用方法を模索し、授業改善を図っていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語の「話すこと・聞くこと」において、正解率が低くなっている。 【指導上の課題】 生徒が反復・習熟する時間設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、基本的事項の徹底に取り組む。【週に1度の実施】また、個に応じた支援をして、協働的に学び合う場の充実を図っていく。【月に1度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 数学、英語で「思考・判断・表現」の問題の無回答率が高い。 【指導上の課題】 問題解決に取り組む時間が不十分である。	⇒ ICT機器を有効に活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信し、互いに学び合う場を設定していく。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基本的事項の反復・習熟を行う。【毎回の授業で実施】【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な解答の割合が85%以上】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	市学習状況調査のICTを活用した学びに関するアンケートの結果では、おおむね市平均値を超える項目も多く、ドリルパーク等でタブレットを活用した授業を行うことができたと考えられる。市学習状況調査の「知識・技能」において、市平均を下回った科目もあったので、基本的事項の定着を図る必要があると考える。
思考・判断・表現	A	市学習状況調査のアンケートの「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対して、95%を超える肯定的な解答を得ることができた。今後も積極的に話し合う機会をつくり、生徒が主体的に学べる授業を取り入れていきたい。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R5年度の自校の結果と比較し、国語-8pt、数学+6ptであった。国語の情報の扱い方に関する領域において、全国平均より+4ptであった。数学の図形の領域において全国平均より+7ptであった。
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R5年度の自校の結果と比較し、国語-13pt、数学-9ptであった。国語の話すこと・聞くことの領域において、全国平均より+7ptであった。数学の記述式の領域において、+6ptであった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校を比べると、おおむね平均値と同等であった。特に、中2社会の日本の様々な地域、近世までの日本とアジア、中1理科のエネルギーを柱とする領域において、学習状況調査の市調査結果と比較し、3pt以上上回ることができた。
思考・判断・表現	どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校を比べると、おおむね平均値と同等であった。特に、社会においては1年生、2年生ともに市調査結果を上回ることができた。一方で、国語においては両方とも下回ってしまったので、既習事項を確認したり、繰り返し学習させたりして定着を図っていく。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	スタディサプリ等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。また、協働的に学び合う機会の設定では、教科によって差が出てしまった部分もあり、学校全体で共有して、一斉に取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	スタディサプリ等を活用し、基本的事項の反復・習熟を行ったが、毎回の授業での実施は難しかった。また、ICT機器を活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信する機会は、以前と比べると多くなった。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)